奥出雲町でドラマロケ
橋田壽賀子ドラマ「JAPANESE AMERICANS（仮）」

草彅剛主演、橋田壽賀子脚本、福澤克雄監督によるＴＢＳ開局六十周年記念ドラマ「ＪＡＰＡＮＥＳＥ ＡＭＥＲＩＣＡＮＳ」（仮）のロケが六月十五日から二十一日までの七日間、奥出雲町内で行なわれました。

今回町内でロケを行なったこのドラマは、平成十六年のＴＢＳ系ドラマ「砂の器」、平成二十年東宝映画「私は貝になりたい」でも奥出雲町を舞台に撮影された福澤克雄さんが監督を務めました。

ロケは櫻井家、絲原家、大原新田、鳥上の山郡地内など町内各地で行なわれ、主演の草彅剛さん、大杉漣さんなどの著名俳優陣、福澤監督をはじめ大勢のスタッフが訪れました。

物語は百年前にアメリカへ渡った日系移民が、人種差別や戦争による逆境・苦悩を乗り越え生き抜く家族の勇気と、世代を越えて現代に至る彼らの魂、そして百年に渡るその変遷を描いています。

主演の草彅さん 奥出雲町でオールアップ

山郡地内の古民家での撮影では、主演の草彅剛さんがオールアップを迎え、前日から映画のＰＲのため島根県を訪れていた、俳優の中井貴一さんが、激励に来られました。

町民50人がエキストラで出演

このロケでは、約五十人の町民がエキストラとして出演しました。

ドラマの時代背景にあわせた衣装を身にまとったエキストラたちは、スタッフからの細かい指示を真剣に聞き、緊張した面持ちで撮影に挑んでいました。

▲スタッフの説明を真剣に聞くエキストラのみなさん

皆さんの協力で撮影が無事終了しました

ロケ期間中は、なかなか天候に恵まれず、何時間も雨が止むのを待つという場面がしばしばありましたが、ロケ地となった櫻井家、絲原家、また地元自治会からの食事の提供など、各方面からの全面的な協力により、予定されていた撮影を全て終えました。

このドラマは、ＴＢＳ系列で、今年秋頃五夜連続で放映される予定です。

音楽だけが世界語 山陰フィルハーモニー演奏会

松江市に本拠地を置き、県内各地で演奏活動を行う山陰フィルハーモニー管弦楽団の演奏会が、六月十八日、八川コミュニティセンターで行われました。

「音楽だけが世界語。翻訳の必要がないメロディ」をテーマに、奥出雲町国際交流協会が主催し行われたこの演奏会には、国際交流協会会員をはじめ約六十五人が会場を訪れました。

演奏は、ビオラとチェロ、二人のバイオリンによる四重奏で行われ、ヴィヴァルディの「四季」など誰もが一度は聴いたことがある曲を中心に八曲が演奏されました。

また、演奏会途中には、それぞれの楽器の構造や音の鳴り方について分かりやすい説明があり、来場者は熱心に聴き入っていました。

会場には、ワインやドリンク、これにあわせた地元食材を使った料理が用意され、来場者は、食事を楽しみながら、リラックスして美しい管弦楽の調べに耳を傾けていました。

▶美しい音楽に聴き入る来場者

一日だけのブックカフェ

ブックカフェ OKUIZUMOオープン

▲古本を見定める来場者たち

六月十九日、横田のガラス工芸館で、「ブックカフェＯＫＵＩＺＵＭＯ」が一日限りのオープンをしました。

今回のイベントを企画したきらり☆読書で輝く町づくり実行委員会は、「住民が集まって活動し、癒しの場となるような本格的な図書館建設を」と今年一月に約二十名で組織され、このブックカフェは、活動の一環として行われました。

会場では、一般の人が出品した「一箱古本市」も開催され、古本を品定めする人や、カフェで読書をする人など、来場者は、それぞれのスタイルで本の世界に浸っていました。

また、カフェでは、延命水を使っていれたコーヒーと地元の菓子店のケーキなどが販売され、コーヒーを飲みながら読書を楽しむ姿も見られました。

今回のブックカフェオープンにあわせて、五月に行なった滋賀県での図書館巡りの報告会が行われ、来場者に図書館の必要性をアピールするなど、有意義なイベントとなりました。

実行委員会代表の岩沢彩子さんは「今後も継続して活動を行ない、皆さんが本に親しんでもらえる機会が増えたら良いと思います」と話されました。

カンボジア滞在体験を報告

一人ひとりの意識が世界を変える

～仁多中・岩沢壮太さん～

ＮＰＯ法人「国境なき子どもたち」の事業で、十一日間カンボジアに滞在した岩沢壮太さん（仁多中三年）が、貧困にあえぐ現地の子どもたちの実態についての報告会を六月二十五日、仁多中学校で行ないました。

岩沢さんは「国によって人間らしく生きられない世界があるのは絶対いけない」、「一人ひとりが意識を変えることが、こうした世界を変えることにつながる」と、報告会に出席した同級生八十九人や教職員、保護者に訴えました。

▶現地の様子を報告する岩沢さん

不思議な演劇世界に感動

島根県児童演劇巡回公演

劇団風の子九州「なるほ堂ものがたり」

六月二十四日、二十五日の二日間、町民体育館で劇団風の子九州による「なるほ堂ものがたり」が上演され、町内全小学校の約六百七十人が、迫力の舞台演劇を鑑賞しました。

この公演は、優れた児童演劇を鑑賞する機会を提供することにより、子どもたちの芸術を愛する心を育て、豊かな情操を培うことを目的に毎年開催されています。

▲迫力の舞台演劇

▲演劇の世界に引き込まれる子どもたち

ストーリーは、仲の良い男の子二人が、「なるほ堂」という不思議なお店の主人と出会い、お店の不思議な道具を使っていくなかで、ひょんなことから二人の仲がギクシャクしていく。そこから本当の友達とは何かを再確認するというもの。

目の前で繰り広げられる、不思議でありながら、どこか身近に感じる内容の舞台に子どもたちは、ときには怖がり、ときには真剣に、ときには大笑いしながら、歌と音楽満載の演劇を鑑賞していました。